



動詞の現在形

動詞の直説法現在・不定活用

ハンガリー語の動詞は3人称単数形が基本形で、この形が辞書に見出し語として載っています。多くの動詞は、3人称単数形が変化のもとになる語幹と一致します。この語幹に、主語に応じて以下のような人称接尾辞をつけると、「～する」「～している」という意味になります。

数	人称	後舌母音語 a/o/u 待つ	前舌母音語 i/e 頼む	円唇前舌母音語 ö/ü 座る
単数	1	vár-ok	kér-ek	ül-ök
	2	vár-sz	kér-sz	ül-sz
	3	vár	kér	ül
複数	1	vár-unk	kér-ünk	ül-ünk
	2	vár-tok	kér-tek	ül-tek
	3	vár-nak	kér-nek	ül-nek

語幹が -s, -sz, -z, -dz で終わる語幹をもつ動詞は、2人称単数の接尾辞が、-ol, -el, -öl となります。

語幹が、子音2つ、あるいは、tanít「教える」のように、-ít で終わる動詞は、語幹と子音で始まる人称接尾辞の間につなが母音 a/e (2人称単数, 3人称複数), o/e/ö (2人称複数) が入ります。

動詞の直説法現在・定活用

左の活用形は、目的語がない場合や、目的語があっても冠詞がついていない普通名詞の場合に使います。目的語があって、それが固有名詞や、定冠詞のついた普通名詞である場合には、「定活用」を使います。

「目的語」とは、対格接尾辞 -t がついた語のことです。

ハンガリー語では、目的語が定まったものであるか、そうでないかによって、定活用と不定活用を使いわけます。これは日本語や英語にはない現象なので、少しむずかしいかもしれませんが、英語における冠詞の使い分けと同じようなことを、ハンガリー語は動詞の活用形によってもおこなうと考えてください。

定活用形は、動詞の語幹に次の人称接尾辞をつけてつくります。

数	人称	後舌母音語 a/o/u 待つ	前舌母音語 i/e 頼む	円唇前舌母音語 ö/ü 感謝する
単数	1	vár-om	kér-em	köszön-öm
	2	vár-od	kér-ed	köszön-öd
	3	vár-ja	kér-i	köszön-i
複数	1	vár-juk	kér-jük	köszön-jük
	2	vár-játok	kér-itek	köszön-itek
	3	vár-ják	kér-ik	köszön-ik

不定活用と定活用の使い分けを整理してみましょう。

目的語が、固有名詞や、定冠詞付きの普通名詞、再帰代名詞の場合には、定活用を使います。

Pétert várom. 私はペーテルを待っています。
A magyar lányt várom. 私はハンガリーの女の子を待っています。

目的語がない場合、冠詞なしの場合、不定冠詞付きの普通名詞の場合には、不定活用を使います。

Egy lányt várok. 私はあるひとりの女の子を待っています。

目的語が疑問詞のときは、不定活用になります。

Kit vársz? 君は誰を待っているのですか？

ただし、melyik「どれ」のときだけは定活用になります。この場合は、ある特定のもののなかの「どれ」であるのかを聞いているので、目的語は限定されていると考えます。valamelyik「どれか」など、-ik でおわる疑問詞も同様です。

Melyik lányt várod? 君はどの女の子を待っているのですか？

不規則変化する動詞「行く」と「来る」

よく使う動詞なので、しっかり覚えましょう。

		行く megy	来る jön
単	1	megyek	jövök
	2	mész	jössz
	3	megy	jön
複	1	megyünk	jövünk
	2	mentek	jöttök
	3	mennek	jönnek